45

0478

取扱指定

普通

書類綴

大正十五年 四月 日

決 特務 第一

起案者捺印

大正十五年五月 日 参謀長捺印

発付掛印

主務局部 取扱者捺印

起案部紙(甲)

(提案) 艦政本部長

大臣

次官

副官

参事官

軍務局長

軍需局長

第一課長

第二課長

第三課長

第一課長

第二課長

第三課長

第四部長

第五部長

総務部長

第一課長

第二課長

第三課長

第一課長

軍務局長

軍需局長

第一課長

第二課長

第三課長

経理局長

第一課長

第二課長

訓令案

大正十五年五月十三日

大臣

吳鎮長官宛

四部圖庫格納

局部	受月日	発日
官房		
軍務		
人事		
教育		
軍需		
機關		
總務		
經理		
建築		
法務		
艦政		
紅十字		

起案者捺印

附箋用

大

番號

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

特務艦間宮糧食配給艇新造搭載ノ件

呉海軍工廠ヲシテ首題ノ件左記ニ據リ施行セシムヘシ

右訓令ス

記

一、工事方案

別紙圖面ニ據リ新造ノ上搭載スルモノトス

一、時期

大正十五年九月三十日迄ニ完成ノコト

一、費目

軍事費、造船造兵及修理費（造船材料物品費、造船職工費）、一般修理支辨トシ

別途配付スヘキニ付其ノ豫算海軍艦政本部長ニ通知セシムヘシ

（別紙船体部圖面二葉、機関部圖面二葉添付）

豫算見積約　船体　三、〇〇〇円
　　機関　五、〇〇〇円

書通

（終）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大正十五年四月十四日　大臣

聯合艦隊長官宛

特務艦間宮糧食配給艇新造搭載ノ件

本件ニ関シ別紙写ノ通呉鎮守府司令長官ヘ訓令候條此ノ旨心得ヘシ

右通達ス

（別紙一通添）

（略）

着手　二、四、二〇
終了　二、四、二〇（その旨報告ニ及ラ）

様式第一
（製造方法書一冊）

海軍艦政本部第五部保管

大正十五年五月拾四日發布

起案罫紙（乙）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

閑宮第 3/四 號ノ又

大正十年八月三十七日

閑宮特務艦長尾山登

海軍大臣 賊部彪殿

糧食配給艦搭載件

首題ノ件ニ就キ大正十四年三月三十八日閑宮艦第五四號ヲ以テ上申シタル其後引續キ給糧任務ニ從事致居候處去ル七月末八月初旬ニ亘リ佐伯湾ニ於テ聯合艦隊ノ給糧中最ニ官房第一九七二號ノ二ヲ以テ臨時貸與方御認許相成候後間「ランチ」ニテ糧セシ好成績ニ鑑ミ愈々配給艦ノ必要ヲ認メ候條左記ニ依リ此際搭載方特ニ御全議相成度

右意見ヲ上申第三課

理由

第一課

第二部

艦政本部

0481

紙用箋附

大正14

紙箋附

大正

海軍

[illegible]シ以テ上申
七月[illegible]月
分第一九七二
[illegible]ニテ[illegible]セシ好
リ此際搭載

秘書官

附箋用紙

大正14年9月14日　海軍艦政本部第四部
[illegible]型[illegible]艦[illegible]集ノ準備スル
トシタル

附箋紙

大正14年9月7日　海軍省軍務局
[illegible]改[illegible]
[illegible]
[illegible]

0482

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大正十四年三月二十八日閑宮機密第五四號ヲ以テ上申セシ理由ニ同シ

二、所要配給艇數

今夏佐伯湾ニテ聯合艦隊全部ヘ給糧セシ經驗ニ徴スルニ受糧艦艇ノ出動作業等ニ因スル諸種情況ニ於テ給糧ヲ遂スルヲ所望ノ時間内ニ迅速授受ヲナシトセハ「ランチ」型内火艇一隻ニ換フルニ「ピンチース」型内火艇二隻ヲ以テスルヲ可ト認ム殊ニ將來艦數ノ増加ニ伴ヒ廣正面ニ亘リ炎暑ノ下巡回配給ニ長時間ヲ要スルヲ想像スルトキ殊ニ其必要ヲ痛感ス

三、裝備ニ關シ

(イ)第二ニ依リ「ピンチース」型内火艇二隻ヲ必要トス之ヲ納置スルハ短艇甲板ヲ最適トス之レカ爲ニハ「ダビット」ノ改造其裝着部ヘ保強工事ノ附帶スヘシ

(ロ)右工事施行不可能ナル場合ニハ「ランチ」型内火艇一隻トシ

上甲板右舷前部ニ納置ス

但シ荒天ノ際奔濤ノ衝撃ヲ減少シ固縛安定ノ確保ヲ期スル為ニ艇ヲ可成船艙口ニ近クル必要上第二船艙通風筒

一個移動工事附帯スヘシ

四、駆逐艦ノ要目性能等

別紙ノ通リヲ適当ト認メラル

（別紙添）

別紙

種別	制式	発動機	標準速力	戦船力	搭載量	操縦性	耐波性	其他
ピンスター型	内火艇	内火式	六節	二〇馬力	三・五噸	旋回圏小ナル可	測量艇程度	一、船体堅牢ナル可 二、艇首ノ構造ヲ耐波性ニ富ム如ク又但シ之レカタメ強度ヲ減ロサル可 三、艇首ニ波除ケヲ設クル可 四、底板ハ丈夫ナル格子板トスル可 五、底板ヨリ左右上部ニハ艇座ノ高サ迄内舷保護材ヲ縦行セシメ之ヲ鋲釘スル可 六、艇座ハ装脱シ得ル如クスル可 七、艇首ト機関ノ間ニハ雨除日除兼用覆ヲ備付クル可 八、ラッパ水撒出手動喞筒ヲ備付ク可 九、舵ノ使用上艇ノ最大幅ヲ吸込トスル可 一〇、機関ノ上ニハ覆ヲ設クル可
チンラ型	内火艇	内火式	六節	二〇馬力	二・五噸	旋回圏小ナル可	測量艇程度	

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

0486

三五五四

大正十四年九月七日

水村呉海軍工廠造船部長

鈴木海軍艦政本部第四部長殿

特務艦間宮ニ配給艇装備スル工事ノ入費

概算調査ノ件

七月六日附艦本四第四、一二六七號御照會ノ本件別紙概算書ノ通

リニ有之候

右回答ス

別紙概算書　一通添付

一終一

海軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

特務艦間宮ニ配給艇装備工事豫算書

工事名稱	材料費	工費	附屬費	計
第一案ニ依ル配給艇搭載装置	一、三〇〇圓	二、〇五〇圓	二、〇五〇圓	五、三〇〇圓
第二案ニ依ル 右	一九〇圓	三〇〇圓	三〇〇圓	七九〇圓
配給艇（給体）	一、〇〇〇圓	六九〇圓	六九〇圓	二、三八〇圓
仝（機關）	三、七〇〇圓	二八八圓	三六〇圓	四、三四八圓

第一案ニ對スル合計五千三百圓（配給艇製造費ヲ含マス）

第二案ニ對スル合計（七百九十圓（配給艇製造費ヲ含マス）

配給艇製造費合計六千七百廿八圓

工事日數三十日間（但シ機關製造日數ハ含マス）

海軍

（納宮二）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

閣宮第五四號ノ又

大正四年八月二十九日

尼山閣宮特務艦長

艦政本部

摂津型巡洋艦中修繕

標記艦艇ノ件

本件ニ関シ別紙寫ノ通大臣ニ上申致置候

条可然御配慮相煩度

右御依頼ス

別紙寫

（終）

海軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

寫

陸官第五四號ノ七

大正十四年八月二十七日

間宮特務艦長尤山登

糧食配給艇搭載件

首題ノ件ニ就キ大正十四年三月二十八日間宮機密第五四號ヲ以テ上申シタル其後引續キ給糧任務ニ從事致居候處去ル七月ヨリ八月初旬ニ亘リ佐伯灣ニ於テ聯合艦隊ノ給糧中最寄官庁第一九七二號ノ二ヲ以テ臨時貸與方御認許相成候後間ナシニテ給糧セシ好成績ニ鑑ミ愈々配給艇必要ヲ認メ候條左記ニ依リ此際搭載方特ニ御詮議相成度

右童ネテ上申ス

一、理由

大正十四年三月二十八日閑宮機密第五四號ヲ以テ上申セシ理由ニ同シ

二、所要配給艇數

今夏佐伯湾ニテ聯合艦隊全部ヘ給糧セシ經驗ニ徴スルニ、受糧艦艇ノ出動作業等ニ因スル諸種情況ニ於テ給糧ヲ遂スルヲトナリ所望ノ時間内ニ迅速授受ヲナサントセハ「ランチ」型内火艇一隻ニ換フルニ「ピンチース」型内火艇二隻ヲ以テスルヲ可ト認ム殊ニ將來艦數ノ増加ニ伴ヒ廣正面ニ亘リ災害ノ下巡回配給ニ長時間ヲ要スルヲ想像スルトキ殊ニ其必要ヲ痛感ス

三、裝備ニ關シ

(イ)第二ニ依リ「ピンチース」型内火艇二隻ヲ必要トス之ヲ納置スルハ短艇甲板ヲ最適トス之レカ爲ニハ「ダビット」ノ改造其裝着部ヘ保強工事ヲ附帶スヘシ

(ロ)右工事施行不可能ナル場合ニハ「ランチ」型内火艇一隻トシ

上甲板右舷艦首部ニ納置ス

但シ荒天ノ際奔濤ノ衝撃ヲ減少シ固縛安定ノ確保ヲ期スル為ニ艦ヲ可成船艙口ニ近クル必要上第二船艙通風筒一個移動工事附帯スベシ

四、駆逐艦ノ要因性能等別紙ノ通リヲ適当ト認メラル

（別紙添）

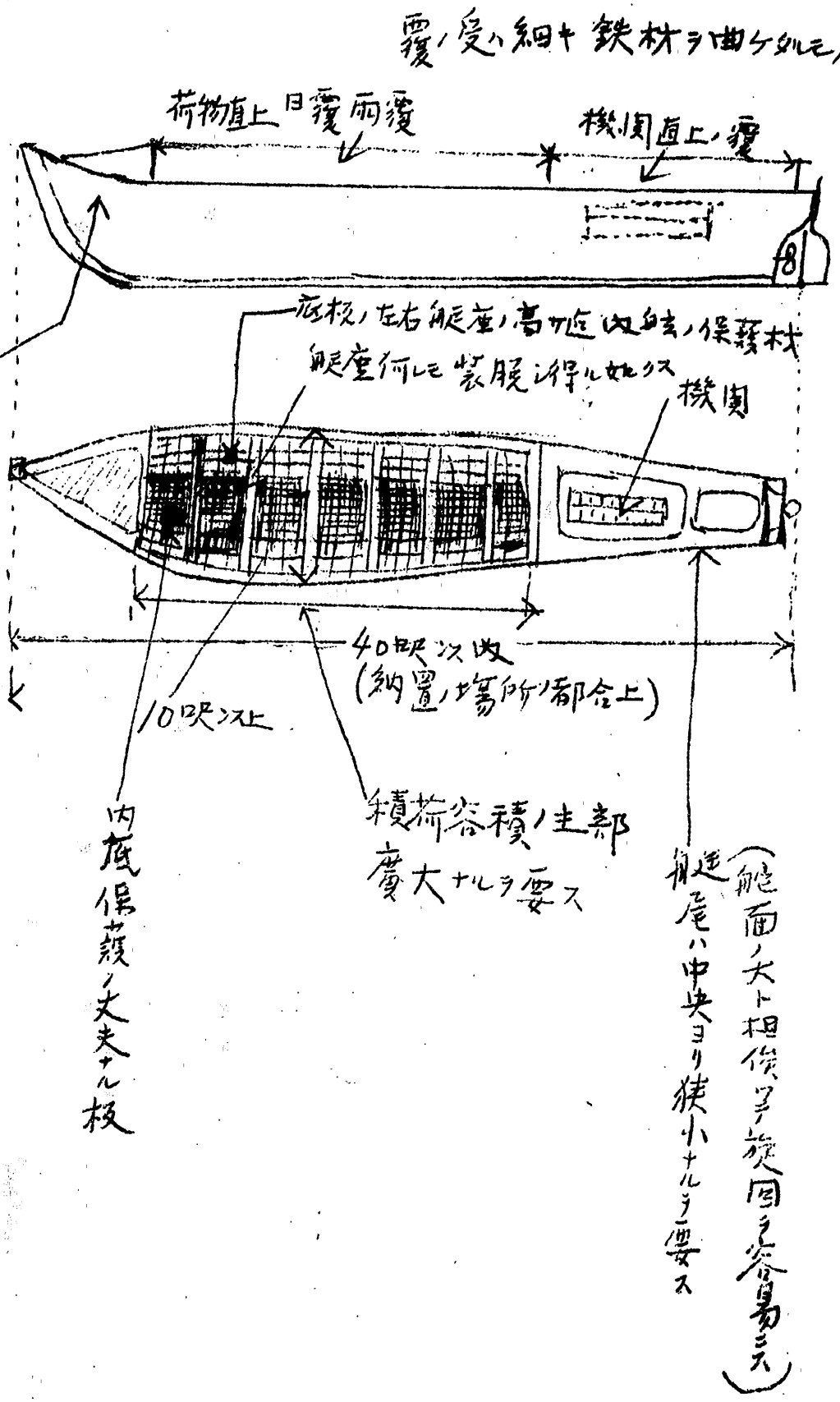
海

軍

別紙

種別	制式	発動機 関制式	速力 標準	戦船力 量標準	搭載量 標準	操縦性	凌波性	其他
ピンス型	内火艇	内火式	六節	二〇馬力	三・五噸	旋回圏可成小	測量艇程度	一、船体堅牢ナル 二、艇首ノ構造ヲ凌波性ニ富ム如ク但シ之レカタメ強度ヲ減セサル 三、艇首ニ波除ケヲ設クル 四、底板ハ丈夫ナル格子板トスル 五、底板ヨリ左右上部ニ艇座ノ高サ迄内舷保護材ヲ縦行セシメ之ヲ螺釘スル
チンプ型	内火艇	内火式	六節	二五馬力	六噸	旋回圏可成小	測量艇程度	六、艇座ハ装脱レ得ル如クスル 七、艇首ト機関ノ間ハ雨除日除兼用覆ヲ備付クル 八、汚水排出手動喞筒ヲ備付クル 九、番ノ使用上艇ノ最大幅ヲ吸込トスル 一〇、機関ノ上ニハ覆ヲ設クル

ジャンク型略図（ピンネースハウニ準ズ）



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

間宮機密第五四號ノ二

大正十四年四月一日

間宮特務艦長片山登

艦政本部送船中佐

桑原重治殿

配給艇ノ件

過般御來艦ノ節申上候配給艇備付ニ關シ別紙寫ノ如ク上申致置候間可然御盡力相願度懇願奉候作業地又ハ根據地等ノ廣濶ナル場所ニアリテハ耐波性ヲ主トシテ考フル必要有之ト存セラレ候ニ就テハ測量艇型（積荷爲艅吃水ヲ大ナラシメサル樣前後部平均ニ積載

（半紙金罫十一行罫紙）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シ得ル如ク機械ヲ中央ニ据付クルヲ要ス）又ハ「ランチ」型ノ前方高クシタルモノヲ適當ト考ヘラレ候、積載量六噸乃至要スル為現存測量艇ニテハ過小ニ付之レヲ擴大シタルモノヲ要スレトモ其ノ比例等不明ニ付可然御設計願上候度御參考迄ニ現存測量艇畧圖相添申候

本艦ノ「デリック」ハ一噸半ノ使用力ニ過ギサルヲ以テ取扱不可能ニ付寧ロ現有「カッター」一隻ヲ撤去シ該「ダビット」ヲ改造シ据付クルヲ便利ト存シ候

右御依頼ニ及ヒ候

（別紙上申寫及測量艇畧圖一冊）

終

0496

大正十四年三月三十一日

間宮特務艦長片山登

海軍大臣戸部彪殿

糧食配給艦搭載ノ件

艦隊編入後昨夏迄今春約六ヶ月給糧任務ニ従事シ其ノ間實験ニ徴スルニ配給艦一隻必要有之候条此ノ際至急之ヲ搭載方特ニ御詮議相成度

右上申ス

（理由）

本艦固有ノ内火艇一隻及機艇ノミヲ以テハ廣大正面ニ散在スル艦隊各艦ニ對シ其ノ配給能力ヲ欠クミナラス困難ニシテ又各艦ノ機動艇ヲ定時本艦ニ呼集シ舷側搭ストスルハ各艦ノ作業ヲ阻害

シ且一時ニ多数ノ小艇蝟集スルヲ以テ作業ノ混雑ニ陥入リ易キハ勿論風波雨雪ノ際ハ不可能場合多シ之ニ反シ各艦随時ノ請求ニ委スル時ハ其ノ都度冷蔵庫ヲ開放スルヲ以テ冷蔵却能力ヲ低減シ貯蔵品ノ変質ヲ釀シ易シ要之給糧艦トシテハ勘クモ一隻ノ配給艇ヲ有セサレハ其ノ全能力ヲ発揮スル事能ハス殊ニ戦時艦隊根據地ニ於テハ然リ本艦ノ如ク糧食ノ搭載及貯蔵ニ大設備ヲ有スルニ拘ラス一ノ配給艇ヲ有セサルハ寧ロ重龍點睛ヲ欠クノ憾アリテ能力発揮上遺憾ノ点多シ此際至急搭載ノ必要アリト認ム

追テ該艇ニ具備スヘキ性能等ハ概ネ別紙通ノ商

當ト認メ候

要旨

（終）

別紙

糧食配給艦ノ要目性能等概ネ左ノ通

制式	機動艦隊制式	機動艦隊標準	民間船舶搭載量標準	艦型	凌波性	其ノ他
内火艦	内火式	六節	二五馬力	六噸	適宜	内艦ハ防熱装置トシ日光及雨雪等ニ対シテ悪影響ヲ与ヒ易キ
						水路部附属測量艦ハ尚艦内ニ種種色装置アリテ水路部測量艦型又ハ之ニ類スル装置ヲ要ス

（搭載量算出ノ基礎ハ附記通）

（配置艦等ハ今ノ対ヒ之ヲ得ル余積艦型ニ高クシテ之モミテ「ポイント」ニ釣リ上

附記

搭載量六噸算出ノ基礎

假ニ現在聯合艦隊ヲ基礎トシテ現有總人員約一七、〇〇〇名

内譯

第一戰隊　五、〇〇〇名

第四戰隊　三、八〇〇名　概数

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第一、第二水雷戰隊　三、六〇〇名

其ノ他　四、六〇〇名

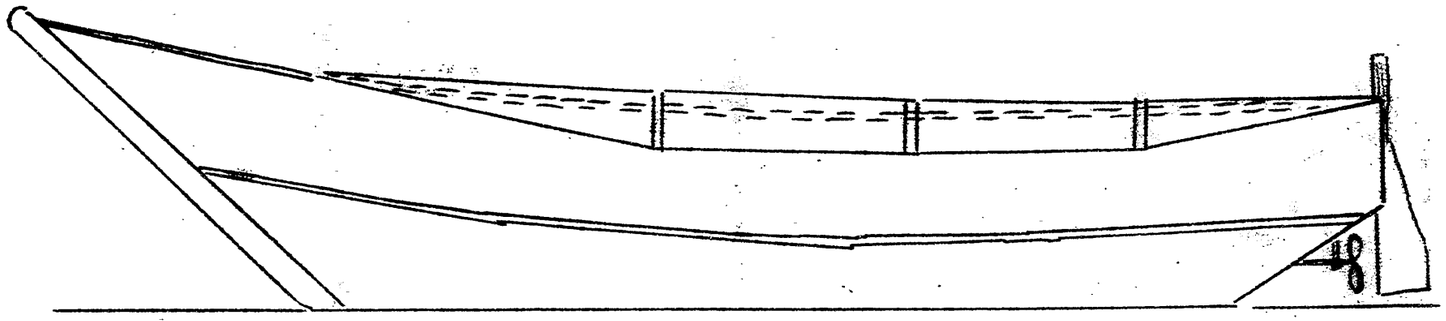
ニ對シ給糧ヲ行ハンニハ給糧艦ニ於ケル現狀ヨリシテ關連看量ノ關係上午前二回午後二回合計一日四回ノ大口積出シヲ以テ最大限度トナシ此ノ意味ヨリシテ一回ニ約四〇〇〇名分ノ糧食搭載シ得ル舟艇ナルヲ要ス又配給上ヨリ之ヲ見ルニ一回ハ第一戰隊ヲ纏メ次回ハ第二戰隊ニ次ヒテ第一、第二水雷戰隊ヲ了テ殘余ノ艦艇ニ纏メテ配給スル如ク作業ノ爲人力散シアル場合ト雖モ配給円滑ニ行ハンヘク四〇〇〇名ハ配給上理想的ノ數字ナルヘシ勿論不足ノ所ハ本艦現有ノ内火艇ヲ以テ補助セシム

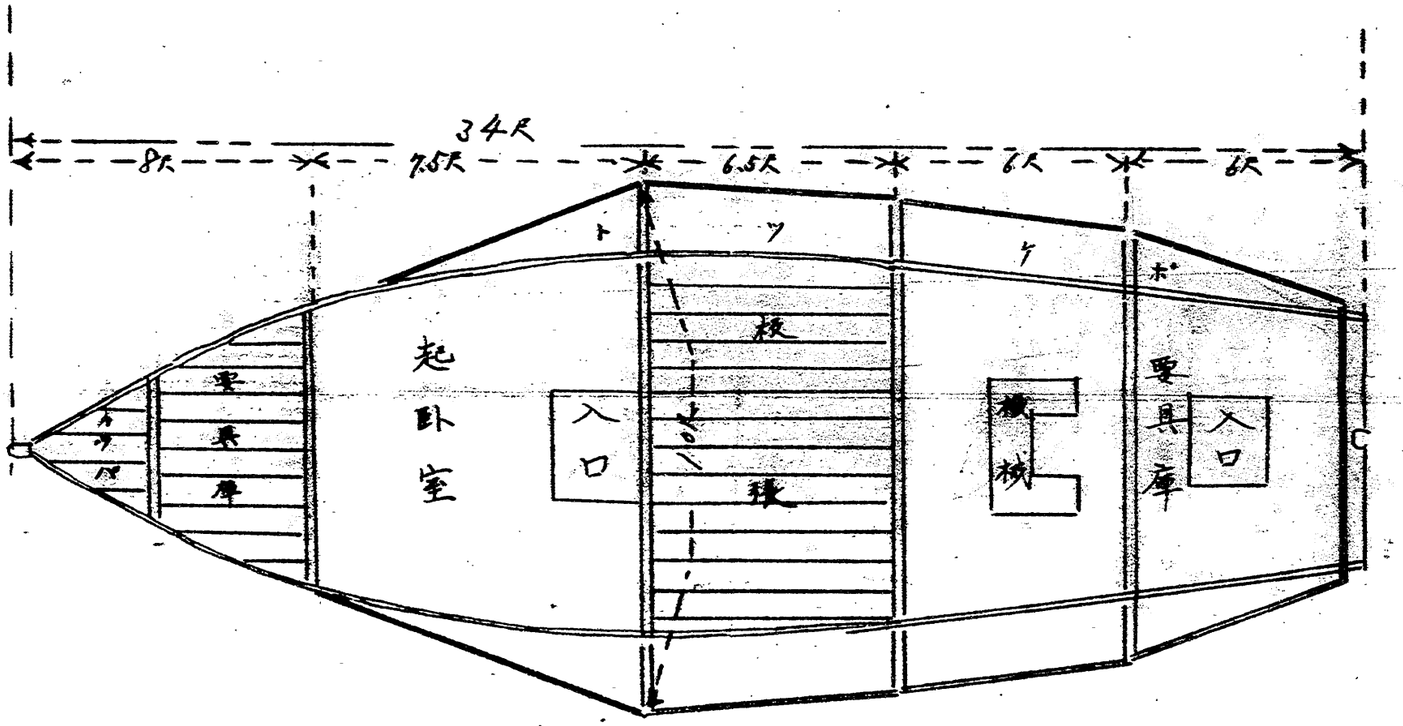
今四〇〇〇名ニ對スル生糧品所要日額ヲ見ルニ一人一回三三〇匁（パン六〇、牛肉四五、魚肉四五、野菜一三〇、漬物三〇、味噌二〇、）ニシテ四〇〇〇名ニ對シテハ正味一三二〇貫容器重量

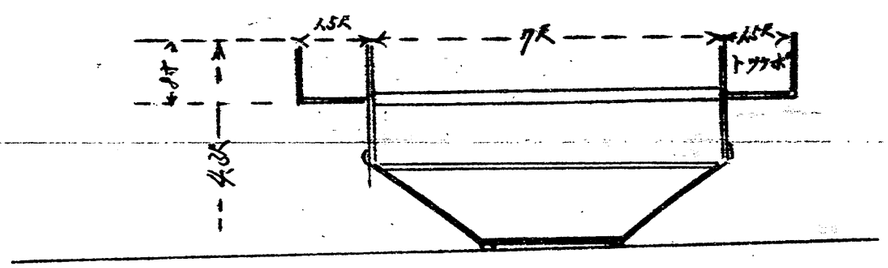
ヲ割ト見積リ一四五二貫即チ五、五噸ニ上リ作業人員ノ搭乗ヲ加ヘ少ナクモ六噸ノ搭載量ヲ有スル舟艇ナルヲ要ス

（終）

海軍







アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

間宮機密第五四號

三月二九日進達

大臣戸部彪殿

間宮特務艦長片山登

第一號　糧食配給艇搭載ノ件

艦隊編入後昨夏至今春ノ約六ヶ月給糧任務ニ従事シ其ノ間ノ実験ニ徴スルニ配給艇一隻必要有之ニ付此際至急之ヲ搭載方特ニ御詮議相成度

右上申ス

（理由）

本艦固有ノ内火艇一隻及横艇ノミヲ以テハ廣正面ニ散在スル艦隊各艦ニ對シ其ノ配給敏活ヲ欠クノミナラス困難ニシテ又各艦ノ機動ノ定時本艦ニ呼集シ出側後ニトスルハ各艦ノ作業ヲ阻害

附紙

0502

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

片山 登

二從事シ其ノ
際至急之カ搭

且ニ散在スル船舶
類ニシテ又各船ノ
船ノ作業ヲ阻害

官房第

附箋紙

大正14年6月6日

海軍省軍務局

南宮高見ニ一度尤ノ次第ナルモ拘束是ヲ入ルノ
配分船ノ其物多設備等モ考慮スルノ要アリ
各種利害関係研究ヲ要スルモノト認ム。

0503

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

シ且一時ニ多数ノ艇舶集スルヲ以テ作業ノ混雑ニ陥リ易キハ
勿論風波雨雪ノ際殊ニ可能ノ場合多シ之ニ反シ各艦隨時ノ
請求ニ応スル時ハ其ノ都度冷蔵庫ヲ開放スルヨリ冷却能力
ヲ低減シ貯蔵品ノ変質ヲ釀シ易シ要之給糧艦トシテハ甚ク
モ一隻ノ配給艇ヲ有セサレハ其ノ全能力ヲ発揮スル事能ハス殊ニ
戦時艦隊根據地ニ於テハ然リ本艦ノ如ク糧食ノ搭載及貯蔵
ニ大設備ヲ有スル点ニ拘ラス一ノ配給艇ヲ有セサルハ実ニ重大遺憾
ヲ欠ク感アリテ能力発揮上遺憾ノ点多シ此際至急搭載ノ
必要有リト認ム

追テ該艇ノ具備スヘキ性能要目等ハ概ネ別紙ノ通リニ適當ト
認メ候

終

別紙

糧食配給艇ノ要目性能等概ネ左ノ通

制式	機載	艦型	搭載量	搭載量	操縦性	浸水性	其ノ他
内火艇	内式 六節	二五馬力	六噸	搭載量算出基礎ハ附記通	通常	水路部所属測量艦	内張ハ防熱装置トシ見張及雨雪等ニ対スル天幕又ハ覆ヲ設ケ且ツ冰水ニ浸ラス吾艦等ニ於テ糧食包装駆逐艦等ニ於テ計算シ得ル容積アリテ水路部測量艦型又ハ今ヲ前ノ例ニ倣ヒ高ノ如キモノニテ多ク釣ラル装置ヲ要ス

附記

搭載量六噸算出ノ基礎

假ニ現在聯合艦隊ヲ基礎トシテ現有總人員約

一七、〇〇〇名

内譯

第一戦隊　五、〇〇〇名

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第四戰隊　三、八〇〇名
第第水雷戰隊　三、六〇〇名　概數
其ノ他　四、六〇〇名

ニ對シ給糧ヲ行ハンニハ給糧艦ニ於ケル現狀ヨリシテ開庫看量ノ関係上午前二回午後二回合計一日四回ノ大口積出シヲ以テ最大限度トナシ此ノ意味ヨリシテ一回ニ約四、〇〇〇名分ノ糧食ヲ搭載シ得ル舟艇ヲ要スル又配給上ヨリ之ヲ見ルニ一回ハ第一戰隊ヲ纏メ次回ハ第四戰隊ニ次テ第二第二水雷戰隊シテ残余ノ艦艇ニ纏メテ配給スル如クセバ作業ノ爲分散シテル場合ト雖モ配給円滑ニ行ハレ四、〇〇〇名ノ配給上理想的ノ數字ナルヘシ勿論不足ノ所ハ本艦現有ノ内大艇ニテ補助セシム

合テ四、〇〇〇名ニ對スル生糧品所要日額ヲ見ルニ一人一回

三三〇〇人（パン六〇、牛肉四五、魚肉四五、野菜一三〇、漬物三〇、味噌二〇、）ニシテ四〇〇〇名ニ對シテハ正味一三二〇貫容器重量ヲ割ト見積リ一四五二貫即チ五五噸ニ上リ作業人員ノ搭乗ヲ加ヘ少ナクモ六噸ノ搭載量ヲ有スル舟艇ヲ要ス

終

海軍

0508

引換

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

軍務局 → 第一課長殿

大正十五年四月八日　　若林軍務局員

高鍋佐世保防備隊副長宛

雑役船橋船ニ関スル件

大正十五年四月二日附號ヲ以テ御照会首題ノ件了承致シ、我ニテハ公称小鷹橋船代船ハ十五年度ニ於テハ到底新造補充ノ見込ナシ当分トシテハ貴隊警備隊繋留地岩壁ニ繋留中ノ公称第三五三八号橋船（旧第一三潜水艦）ヲ北海岸ニ使用セラレ度ク御了知相成度

右回答ス

（終）

四月八日起案
四月八日発信

海軍

機密第十三行罫紙

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

號外

大正十五年四月二日

高鍋佐世保防備隊副長

若林中佐殿

雜役船橋船ニ關スル件

當隊所屬橋船舊名小鷹（附屬隊用トシ北海岸繫屬ノモノ）先般貴官當隊視察ノ砌リ御詢歎候通リ元齡ニシテ既ニ使用ノ境ヲ脱シ殊ニ船殼著シク腐蝕シ水準線附近合所ニ破口ヲ生ジ修理ノ施ス術ナク不足ニテ破口ヲ突出ギ波浪ノ凌ギツヽアルモ何時漫水沈没スルヤモ計ラレズ既ニ本年三月工廠ニ於テ檢査結果大修理價値アルモノト認定セラレ還納ノ手筈ニ候モ御存知ノ如ク一日トシテ代船ナクテハ凌ギ難キ

現状ニアリ止ムヲ得ズ危険ト知リツヽ使用シツヽアルノ
状況ニ有之候ヘバ代船ノ件至急御配慮相
煩度差當リ右代船ニ對スル御心組承知致度
右照會ス

敬白

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

0512

機関長　参謀長　副官　参謀

呉防機密第一三七号

大正十五年十二月七日

呉防備隊司令官　月次郎

艦船部長　部員

海軍大臣　財部彪殿

呉工廠長

当隊所属船引揚相成度件

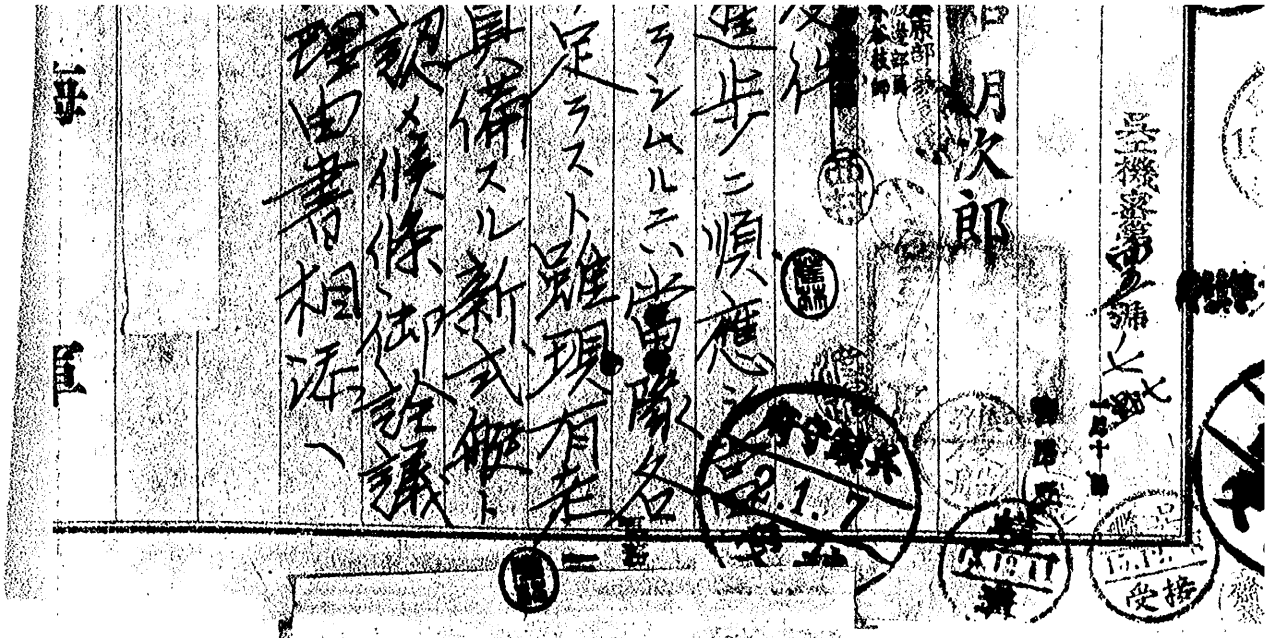
軍務局　艦政本部

艦船引揚ノ儀ハ既ニ再ビ掃海具等ノ進歩ニ順應シ行ヒ遺憾無カラシムルニ当隊各種ノ機械ヲ整備シ其他諸般ノ設備ヲ完スヘキモノ多キニ拘ラスト雖現有者ノ技能ハ之ニ対シ能力ヲ具備スル新式機械ヲ以テ急務中ノ急務ニ属スト認メ候條伝達議ノ上速カニ当隊相成様致度別紙理由書相添ヘ

右上申ス

記

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



昭和二年一月十日

海軍省軍務局

別紙、理由ニ依リ特ニ兵備隊用トシテ御仲考度ク必要ナシ

0513

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

現在	雜役	四	一	六	一、掃海	三、大正元年五月	一、機関	大正元年四月	二、船体特ニ船底部	大正十年三月	一、船体及機械ハ大修理ヲ要スル事
役		帰									
一、機械	雇										
雇	員										

明治三十一年十月建造

大修理ヲ要スル事多ク

一、船体及機械ハ大修理ヲ要スル事

二、機関ハ機械ニテ良ク無ケレモ其ノ一般ニ長老物ニシテ大修理ヲ要ス

大正十六年度

大修理ヲ要スル時期

大正十六年度

一、船体特ニ船底部ハ腐蝕甚シク実ニ危険ニ堪ヘサル状態ニ為リ浪ノ為メ動揺スル事甚シク安全ナリ

二、機関ハ機械ニテ良ク無ケレモ其ノ一般ニ長老物ニシテ大修理ヲ要ス

三、掃海ハ四隻ニ帰定ス

強圧通風用

一、改装セサレハ

力量不足ニ堪ヘサル事

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

昭和十五年

昭和十二年一月十一日

海軍省軍務局

一、現用ノ公称第六四一号用才六四三号ハ三百甲級ニシテ特殊ハ光電標準ニ依リ整備セントコトヲ進行中ナルモ之ガ教授ノ完成ヲ待チ船舶ニ編入シ鎮守府防備隊 百五十名及百甲級各二隻ト十二隻 要港部防備隊 百五十名及百乙級 二隻……八隻 計二十隻

二、無電装備ハ火花式送信機 補助ノ為ノ用ハズ装備ヲ控ヘリ

特殊ノ無電電話式ニ変ヘタル方針ニ付テハ特殊式トシテ未ダ研究ヲ要スル

三、本電機ハ仲ハ就役形トシテハ三百甲級以下ハ装備セズ

（特殊ノ方針）故ニ補充計画ノ百甲、百五十甲級ハ装備セズ

0515

船	六	大正十年四月	四月二八大修理ヲ行ヒレス				
船	四	大正九年四月	引揚ヲ要スル				
舶	二	二機関	機械ハ機ニ付				
雜	二	三二〇〇〇	九製缶ハ日水電眞鍮ハモノ				
所	特	二機械設	二掃海	約六〇〇〇	ヲ換装セルモノ	一有力ナル無電通信機及照明装置ヲ備ヘルコト	
安	務	二	二		大修理ヲ要ス	二十二糎砲一門以上ヲ備フルコト	
新					大正十九年度	三同途標設備ハ	

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

四月ニハ大修理ヲ行ハレタ

一、有力な無線通信機及照明装置ヲ備ヘルコト

二、二糧砲用火薬ヲ備ヘルコト

三、河途標記載ノ事項

昭和二年一月十一日

海軍省軍務局

対所要特務艦ノ新造ニ関シ考慮アリ故ニ此ノ外要ナシ

(イ)十七年度迄完成ノ艦艇ニ対シ中ニアル

各設備相互ノ挿換組織ニ関スル事項ハ本要ナシ

配備ノ何レトスルモ実行備付ノ上ニ考慮ノ要アル

(ロ)第一掃出隊ノ要ヲ認メタルモ一応ノ連絡スルニ止ム此点モ考慮ノ要ナシ

0517

艇

艇

隻

三防潛網

敷設

ヲ兼備シ尚一時ニ敷設シ得ル機雷数八〇〇以上庫内格納ニ得ル機雷数八〇以上

一時敷設ニ得ル防潛網長約浬タルコト

（終）

注

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

（別紙）

附屬船艇引渡上申理由書

當隊現有附屬船艇（機動艇）ハ黑神、歷山、硯海及公稱六四一、六四二以下小汽艇ヲ加ヘ十五隻ニ上ルト雖歷山、硯海ヲ始メ大部ハ老朽衰微シ僅ニ黑神及交通船一隻カ大正元年以後ノ建造ニ係ルノミナル現狀ニシテ修補整理ヲ督勵シ之等ノ節用保存ニ努力シツヽアルモ今ヤ殆ト任務遂行ニ耐ヘ難キ窮境ニ陷ルニ至レリ

一、教育訓練上ヨリ見タル理由

當隊平時編制ハ機雷班十二個及掃海班六個等ヨリ制ルニ對シ之等數設及掃海訓練用ニ使用シ得ル船艇ハ僅カニ黑神型一隻及前顯公

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

稱號ニ隻ニ過ギスシテ之等三隻ノ不斷活動ニ待ツモ尚所望ニ達セサルニ拘ラス公稱號ニ隻ノ現狀ハ左ノ缺陷アリ

(一)老朽ノ為頻繁ナル修理手入ヲ要シ最近一ヶ年ヲ通シ右二隻共同時ニ出動シ得タル期間極メテ短少時ニ過ギサリキ

(二)船体老朽腐蝕ノ為突發的ニ船底ニ穿孔ヲ見ルコトアリ外海ハ勿論紀伊水道豊後水道方面ノ行動作業ニスラ不安大ナルノミナラス全然照明具(発電機)ノ装備無キカ為殆ント夜間ノ行動作業不適ナリ

(三)大掃海具ヲ以テスル掃海訓練用ニ主用シツヽアルモ速力遲緩ノ為千二百米以上ノ大掃海具

二號丙ヲ用ユル場合ニ於テハ最大實速力五節ヲ出テス多少風潮アル海面ニ於テハ掃海ヲ甚シク困難不確實ナラシム

(四)副用トシテ機雷敷設訓練ニモ便用スルコトアルモ搭載可能数各二十個ニシテ僅カニ初歩訓練ニ使用シ得ルノミ而モ黒神ト編隊敷設訓練ノ如キ六節内外ノ低速力ヲ以テノミ遂行シ得ルニ過キス

尚訓練期間ノ一半ハ両種班同時ニ出動シ各其班名ニ因メル主務訓練ニ從事スルノ外其副務トシテ機雷班ハ掃海訓練ヲ又掃海班ハ敷設訓練ヲ行ハサルヘカラサル関係上不断ノ出動可能ニシテ装備優秀ナル船艇ノ充當ヲ切要トス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

敵ニハ主ニ敷設訓練及掃海訓練ニ就キ述ヘタル
處ナルモ當隊トシテハ尚基準網防潜網等ノ敷設
訓練ヲ實施セサルヘカラサルニ對シ現ニ之ニ適スヘキ
船艇無ク防潜網敷設ノ如キ止ムヲ得ス運貨船ヲ
用ヒ右公稱號ヲ以テ曳航シツヽ行フ如キ迂遠ナル
方法ヲ採リツヽアリ之又主文表記ノ如ク少ナクモ防
潜網一浬ノ艤備敷設能力アル新型艇ヲ要望ス
ル所以ナリ

二、作戰準備ヨリ見タル理由

前記教育訓練上ヨリ見タル理由ハ直チニ本作
戰準備ヨリ見タル理由ノ根本ヲ為スモノナルモ尚
(一)各防備隊ノ戰時ニ於ケル第一次準備機雷敷
ヲ通覽スルニ當隊所掌數量ハ第一位ニ在リ

又基礎員ニアリテモ現在班数ニ於テ要港部防備隊ニ準スルノ状況ニアリ殊ニ戦時一時ニ多額ノ準備ヲ要スル機雷掃海具及各種防禦網等ノ整備取扱ハ平時不断ノ積極的訓練ニ依リテノミ遺憾ナキヲ期待シ得ルモノナルカ故ニ最低限度トモ稱スヘキ本要求ノ充足ハ實ニ喫緊事ニ屬ス

(二) 伊豫灘、周防灘、紀伊水道、豊後水道、下関海峡等ニ於ケル各種防備関係作業ハ必スシモ當隊現在員現有船艇ヲ以テ行フ限リニアラスト雖モ平素ヨリ克ク之等現地ニ於ケル各種防備作業實施ノ基礎的要素ヲ究明検討シ以テ有事ノ日ニ於テ嗟臍ノ悔無カラシメムニハ四季晝夜ヲ通シ少クトモ之等地域ノ行動路

査ニ堪能ナル船艇ノ整備ヲ待ツテノミ期待シ得ヘキモノナルニ拘ハラス當隊ニハ之ニ適スヘキ一隻ノ船艇ヲモ具備セス之レ起黒神型トモ稱スヘキ主文表記ノモノヽ新鋭製充當ヲ以テ旧公稱型ニ引換方ヲ翹望スル所以ナリ

因ニ記ス斯種新艇ニ十二糎砲ノ裝備ヲ要求スルハ列強潜水艦砲煩裝備ノ現狀ニ鑑ミルモ當然ノ事ニ屬ス

（終）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

軍務第一 巻 雑

軍務局

大正十五年一月一日

海軍兵學校教頭

中尾軍務局員殿

第一課雑役船ニ關スル件

大正十六年度ニ於テ引渡スヘキ雑役船ハ已ニ呉鎮長官宛發送致候處左記ノモノハ是非必要ニツキ事情御考察ノ上寛恕スル樣特ニ御配慮ヲ得度

右照會ス

左記

一、公称第一三二號（第一汽艇四七、四噸）

理由

小蒸ラ生徒學生ノ見學用並輸送用ニ充當シ多大ノ便宜

軍務局機密 一月十三

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヲ得ザルニ船齡古クシテ船体機関共ニ衰朽シ特ニ甲板ノ如キ塡隙スルニ材質既ニ腐蝕セル個所アリ外舷亦小孔及間隙アリテ風波ノ場合浸水シ姑息ノ修理ニテハ完全ヲ期シ難ク尚操舵装置ニ摩耗遊隙多ク操縱意ノ如クナラス目下工廠ニテ修理中ナリ本年認定検査ニ依レハ相當修理ヲ加ヘ二ヶ年ノ使用ニ堪フル程度ナリ

(2) 十四年一月新ニ呉小用間交通艇トシテ百噸ノ交通船一隻配備セラレタルニ該方面ノ交通ハ一層頻繁トナリテ到底生徒、學生用、流用不可能ト認ム

(3) 諸(実習ノミナラス)見學等ノ為ノ學生生徒全員輸送スル場合多シ千代田ヲ出動セシムルニハ燃料ト時間ニ於テ多大ノ損失アリ旁不便ニシテ即應シ難シ

(4) 大正十五年度軍艦矢矧本校練習艦トシテ江田内ニ碇泊ス

ルコトヽナリ其他遠東附近ノ業員全部ヲ収容スル能
ハサル外出入ヲ呉方面ニ送迎スル必要アリ修理
手入其ノ他ノ場合ヲ顧慮スルトキハ現用一〇〇噸汽艇一
隻ニテハ不足ニツキ至急引換ヘヲ望ム

二、代船

本船ハ船齢古ク船体機関共ニ一般老衰シ大正十六年
度ハ引換ヘヲ要スル程度ナリ依テ代船トシテ絶對必要
條件トシテハ

(1) 定員僅ニ三ノ炭費ノ経済ナルコト
(2) 三百五十人以上収容シ得テ百五十名位ノ宿泊食事
可能ナルコト
(3) 便用上他ノ制肘ヲ受ケサルコト

右條件ヲ考慮スルトキハ現在ノ艦船中勝力ヲ適當ト